



# 積石塚・渡来人研究会

## 第6回 研究例会

積石塚・渡来人研究会では、今年度の共同研究テーマを「渡来人と寺・道」とし12月の総会・記念講演会に向けて取り組んでまいります。今回の研究例会は、その「中間報告会」となります。

**日時** 2018年7月21日(土) 13:30～16:30 **※申込み不要**

**会場** 公益財団法人 山梨文化財研究所 講義室 **資料代：500円**  
山梨県笛吹市石和町四日市場 1566-2 TEL 055-263-6441

※過去の会場とは異なりますのでご注意ください。

**報告1** 末木 健 氏 (山梨県考古学協会会長・本会会長)

### 「仏教伝来と甲斐古代寺院」

仏教は、6世紀中葉に朝鮮半島の百済から公伝し、倭(日本)では大和の飛鳥寺をはじめとする初期寺院が建設され、白鳳期に全国で500を超える寺院が建立されました。こうした急速な仏教の普及は、国家的な政策と支援なしではできなかったはずですが、甲斐の古代寺院はどのような背景と支援により建設されたのか、瓦文様や技法の検討などを通して、その背景を探ります。



村統遺跡出土小型仏像の  
脚部付台座 (白鳳期)

**報告2** 榎原 功一 氏 (帝京大学文化財研究所講師)



天狗沢瓦窯跡出土軒丸瓦 (白鳳期)

### 「天狗沢瓦窯の瓦とは何か」

天狗沢瓦窯跡の軒丸瓦は、東山道沿いに点在する寺院跡に文様の系譜、技術的な系譜を求めることができます。出土した瓦にはどのような特徴があり、これまでどのような研究が行われ、何が明らかになり、またどのような課題が残されているのかなどを整理し、今後の研究の方向性にも言及できればと思います。

**報告3** 原 正人 氏 (駿台甲府高等学校教諭・本会事務局長)

### 「古代の寺・堂と道・衢」

奈良・平安時代には、国分寺や定額寺のような七堂伽藍を備えた大きな寺院以外に、瓦塔や小金銅仏などを伴う「ムラのお堂」ともいべき小さな寺が、集落を通る主要路沿いや、道々が交差する往来盛んな場所＝衢(ちまた)にも多く建てられました。墨書土器や歴史地理学的手法を用いて、「寺のある風景」の復元を試みます。



松ノ尾遺跡出土「狛口寺力」墨書土器

#### 「積石塚・渡来人研究会」について

古墳時代から律令制の時代にかけて朝鮮半島などから日本列島に移住し定住した人びとの残した足跡とその意義を検証するため、考古学・文献史学などを軸とした総合的研究を行う新しい研究会です。講演会・研究例会・見学会などの催しに、どなたでも参加できます。ふるってご参加下さい。

<連絡・問合せ先> 積石塚・渡来人研究会 事務局 080-6724-7311 (原)